

伊藤（哲）研究室



想定外の危機に対応できる危機管理の要諦と危機への心構え

人間・社会系部門

危機管理学

国家の危機管理の根底となる考え方

危機の発生に当たっては事態の早急な収束と人命の救助が求められるが、その際何を基本に考えて危機管理に当たるか、その際の重要な考え方は何かは、危機管理に当たる当事者（リーダー）にも必ずしも知られていない。そのため、眼前に発生する事態に優先順位も何もなく発生する順を追って対応し、混乱を極めた対応が行われることになる。そこで危機管理における根底となる考え方について考察する。

危機管理において行うべき基本的なこと

危機管理の目的を決める

危機が発生した場合、危機管理に当たっては、発生した危機に対して、何を目的に、何を優先してどのような対策を行っていくのかをまず決定しなければならない。そうした意味で危機管理の目的を決めることが何よりも重要となる。

- ・ 通常は、人命の救助、被害の拡大防止、国家のガバナンスの維持が優先されるべきであるが、これらを同時に達成することが困難な場合もある。
- ・ この場合、何を優先させるべきかが問題となる。

優先順位の決定

- ・ 何が第一優先順位化を決める必要がある。
どうやって決めるのか
- ・ 価値観に基づいて優先順位を決定する。
- ・ 優先順位を決めることは、劣後の対象を決めることでもある。
- ・ 行政としての明確な意思表示が必要となる。

緊急時には通常の価値観が変化する

危機管理の目的を達成するために、平時と異なり、通常は優先すべきものに対する対応が変化することが多い。このため、

- ・ 個人の権利の制限の必要
- ・ 個人への義務の発生
- ・ 弱者の位置づけの変化
- ・ 法手続きの省略 などが必要となる。

ただし、これら上記のものの内容は、国民の理念に合致したものでなければならない。

国民の理念に合致した危機管理の目的、手段、方法、優先順位は、何で決まるのか

国家、民族の歴史的、文化的、政治的経験

国民と為政者の意識を決める

- ・ 国の在り方
 - ・ 国家と国民の在り方
 - ・ 国と地方の在り方
 - ・ 公務員の在り方
- は、国によって違う
- 国の歴史、伝統、文化が形作る

国民の歴史観、国家観が危機管理のやり方を決める

危機管理においてはリーダーの迅速な判断と決断が要求され、リーダーの決断力と責任を取る覚悟が求められ、リーダーの本当の姿（人格、力量）が出る。

この場合、危機管理における判断は、国民の歴史観、国家観に合致したものでなければならない。

リーダーの独りよがりではいけない

危機管理においてリーダーに求められるもの

危機においてはリーダーは、危機管理の目標、優先順位を国家観、歴史観に基づいて瞬時に決めることが求められる。国民もまた、危機にあっては危機管理の決断は、リーダーにゆだねる以外はない。

このため、リーダーに歴史観、国家観がないとどうなるかといえ、こうしたリーダーは、判断の基準を声の大きいものに置こうとする傾向が出てくる。その結果、政策に一貫性がなく、場当たりの危機対応となる傾向がある。

危機管理がうまくいくかどうかは、リーダーに歴史観、国家観があるか如何にかかっている。